



フェンスAS TR

このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためにも、各種表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容および指示にしたがってください。

■本書の見かた

この取付説明書では、以下のような記号、記載、アイコンを使用しています。

■安全に関する記号と説明



警告

・取付けを誤った場合、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。



注意

・取付けを誤った場合、使用者などが中程度の損傷・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。

■情報に関する記号と説明

お願い

・取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
・守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

■ネジ等の締結部品の記号

ネジやナット等の締結部品を記号で示しています。(例：1a、1b、2a等)

締結部品の種類は「**梱包明細表**」を参照してください。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

□施工の前に

▲警告



- フェンスは隣地との境界を示す目的で設置するものです。転落防止を目的とした防護柵や歩行補助を目的とした手すりとしては使用しないでください。特に崖上や高台など、転落してケガをするおそれのある場所へは施工しないでください。
- 手すりではありません。フェンスに乗ったり、寄りかかったり、揺すったりしないでください。転倒・転落のおそれがあります。

▲注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。

施工前のお願い

- ブロックに施工する場合は、JIS A 5406の区分16 (C種) 以上で施工してください。
- 施工場所に寸法的に正しく納まるか事前に必ず確認をしてください。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。熱による部材の変形・劣化の原因になります。

施工上のご注意

▲ 注意



- ネジは当社指定品を指定本数使用し、下記締付トルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。強度低下などの原因になります。

〈推奨トルク〉

φ4ネジ:

アルミ

1.5N・m±0.5N・m(15±0.5kgf・cm)、
樹脂

1.0N・m±0.5N・m(10±0.5kgf・cm)

- 施工時に製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。アルミなどの金属が腐食し強度低下の原因となります。
- 現場で取付金具や継手を組付け・締結する場合は、施工後に締結具合を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故のおそれがあります。
- 柱埋込み時には水抜き穴を塞がないように施工してください。柱の腐食が促進するとともに、溜まった水が凍結し破裂するおそれがあります。
- 柱と本体ジョイント部の間隔は60mm以上200mm以内で施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が大幅に低下します。
- フェンス本体は傾斜対応を可能にする構造上ななめにつぶれますので、上下棧と小棧のすき間に指をはさまない様注意してください。
- 上下棧が上棧用ブラケット・下棧用ブラケットに確実にかかるよう取付けてください。フェンス本体が外れるおそれがあります。



▲ 注意



- 組付け後、必ず鋭利な切断面やバリが露出していない事を確認し、修正してください。ケガをするおそれがあります。



- 製品の改造は絶対にしないでください。不具合・強度低下などの原因になります。
- 施工終了後は、ネジにゆるみがないか確認してください。強度低下などの原因になります。

施工上のお願ひ

- モルタルやコンクリートの抽出液が、施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全带、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

チェックリスト

※下記項目は重要事項ですので必ず点検してください。

基礎工事について


⚠ 注意

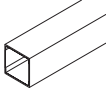



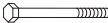



- コンクリートまたはモルタルには、塩分を含む砂(海砂)および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤(凍結防止剤、凝固防止剤、急結剤など)は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食するおそれがあります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。
- ご使用になる場所に合せて基礎寸法を算定してください。本取付説明書に記載している基礎寸法は、長期地耐力100KN/m²、風速38m/秒相当の地域を想定した参考寸法です。
- 柱の内部にモルタルを詰めたりしないでください。



●ネジ止め、水抜き穴、上下棧用ブラケット



No.	ページ	チェック内容	
1	6~8	取付けネジは同梱のネジを使用し推奨トルクでの取付けを行い、ゆるみがないことを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
2	6	柱の水抜き穴は塞がっていませんか。	<input type="checkbox"/>
3	6	上下棧は上棧用ブラケット・下棧用ブラケットに確実にかかっていますか。	<input type="checkbox"/>

梱包明細表

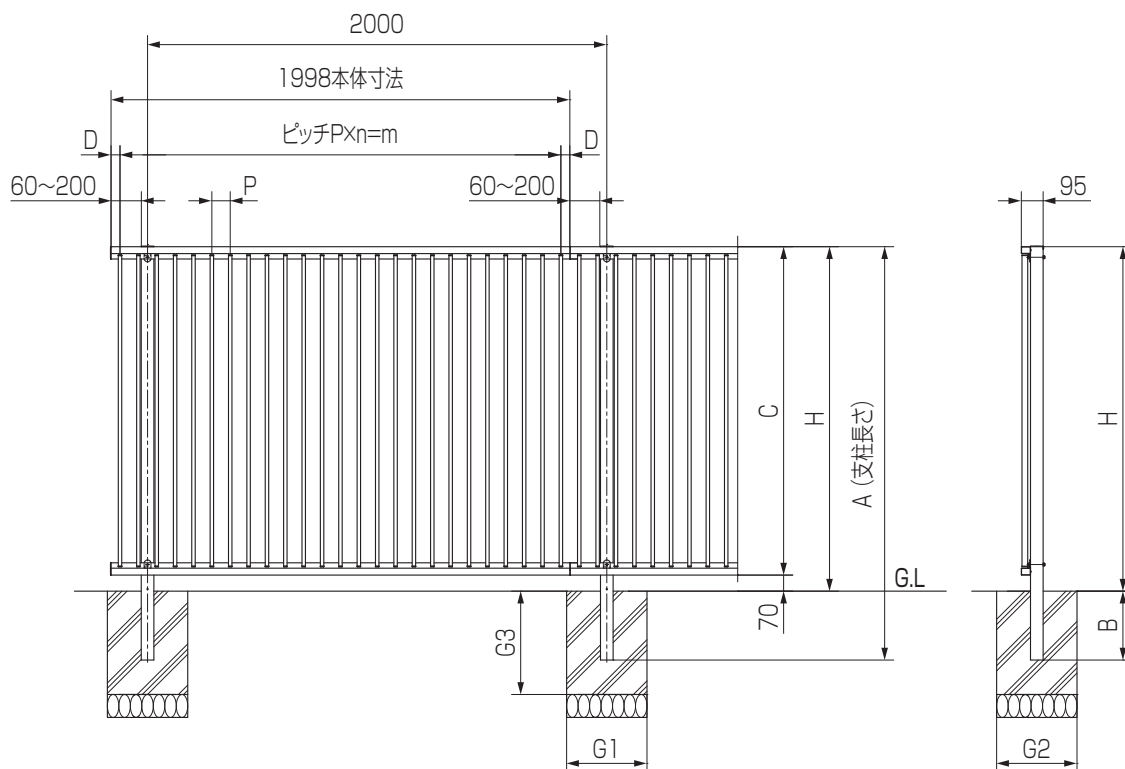
【1】フェンス本体		
名称	略 図	員 数
フェンス本体		1

【2】柱		
名称	略 図	員 数 H1800~1500
支柱		1
上棧用ブラケット		1
下棧用ブラケット		1
継手		2
【2a】六角ボルト M6×65		2
【2b】平座金 M6		2
【2c】バネ座金 M6		2
【2d】トラスタッピンネジ種 M4×10 D=8		2

【3】胴縁キャップセット		
名称	略 図	員 数 H1800~1500
胴縁キャップ		4
【3a】トラスタッピンネジ種 φ4×10 D=8		4
取付説明書	—	1

【4】自在コーナー継手		
名称	略 図	員 数 H1800~1500
自在コーナー継手		2
【4a】トラスタッピンネジ種 φ4×10 D=8		4

1 基本寸法図

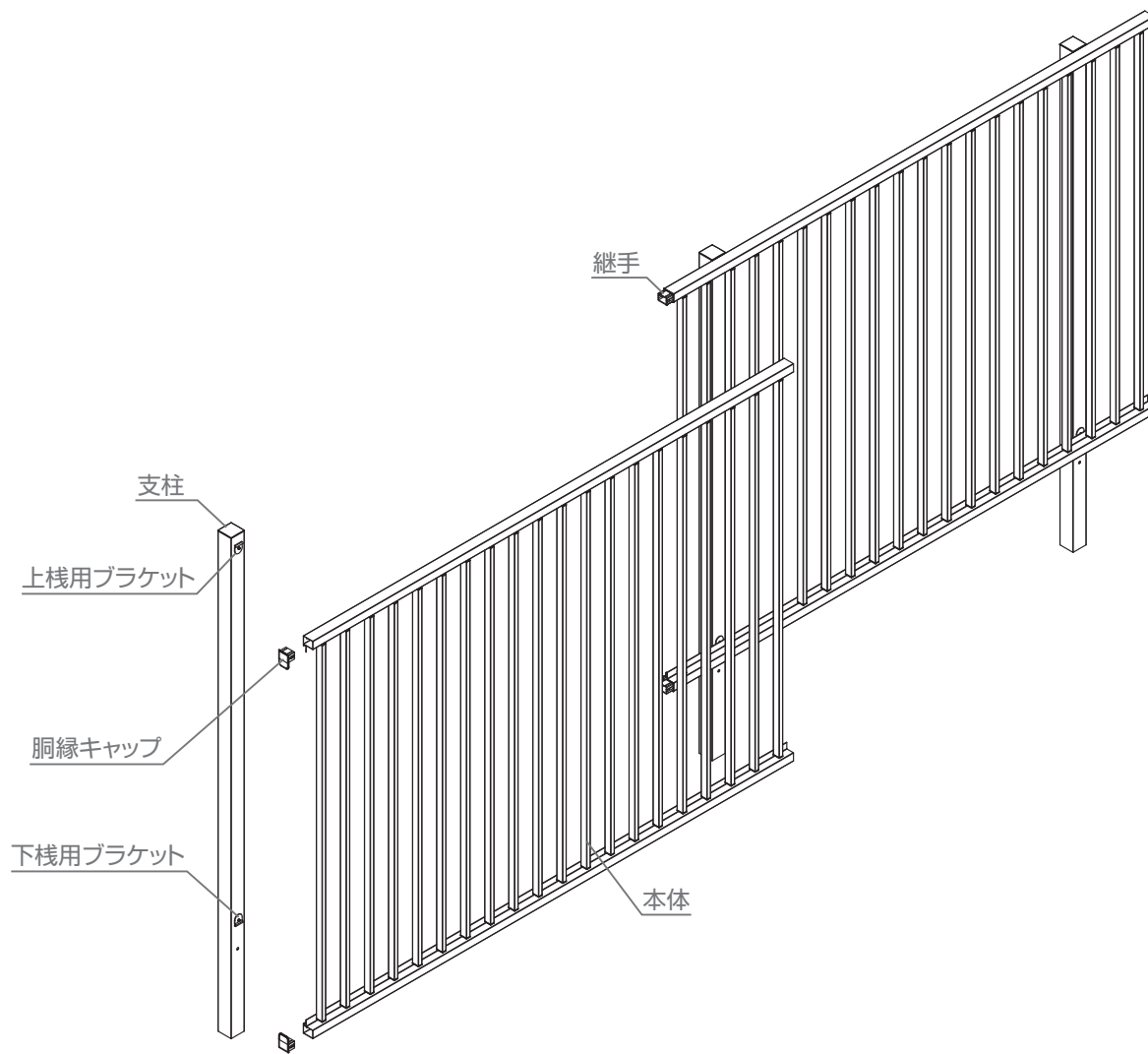


	H	A	B	C	D	P	n	m	標準基礎寸法		
									G1	G2	G3
H800	800	1000	200	730	39	80	24	1920	180	180	450
					49	100	19	1900	180	180	450
					61.5	125	15	1875	180	180	450
H1000	1000	1200	200	930	39	80	24	1920	250	250	450
					49	100	19	1900	250	250	450
					61.5	125	15	1875	250	250	450
H1200	1200	1450	250	1130	39	80	24	1920	300	300	450
					49	100	19	1900	300	300	450
					61.5	125	15	1875	300	300	450
H1500	1500	1800	300	1430	39	80	24	1920	350	350	450
					49	100	19	1900	350	350	450
					61.5	125	15	1875	350	350	450

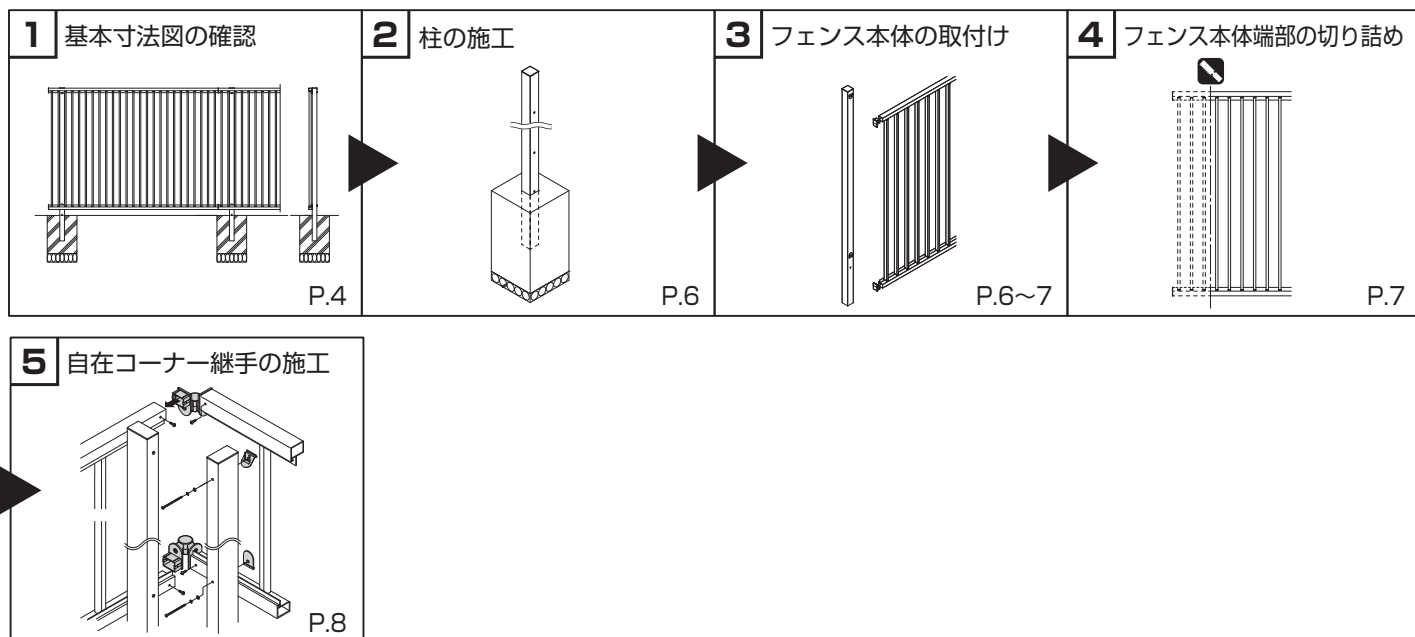
※基礎寸法は長期地耐力100KN/m²、風速38m/秒相当の地域を想定した参考寸法です。

※施工時には現場の地盤に合わせて検証してください。地盤の状況によっては倒壊のおそれがあります。

各部名称



施工の流れ



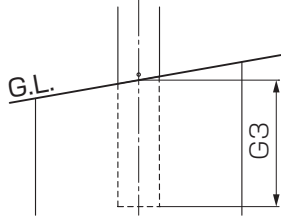
1 柱の施工

⚠ 注意

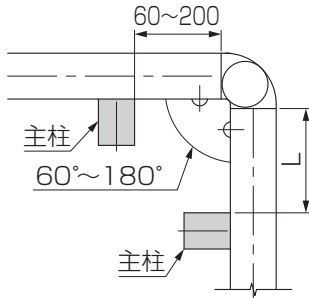
- 柱埋込み時には水抜き孔を塞がないように施工してください。柱の腐食が促進するとともに、溜まった水が凍結し破裂するおそれがあります。

施工上のお願い

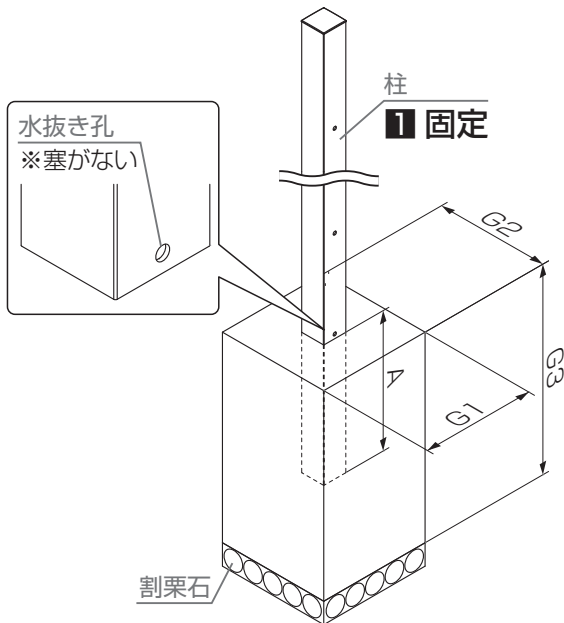
- 傾斜地施工時は、柱センター部が埋込レベルになるように施工してください。



- コーナー部には風が集中するため必ず柱を2本建ててください。
- コーナー部に建てる2本の柱は基礎同士が干渉しないようL寸法を350mm以内で調整してください。



- 基礎寸法表を参考に基礎施工を行い、柱をコンクリートで固定



●基礎寸法表 (寸法単位 : mm)

呼称	A (柱埋込寸法)	G1	G2	G3
H800	200	180	180	450
H1000	200	250	250	450
H1200	250	300	300	450
H1500	300	350	350	450

※基礎寸法は参考値です。

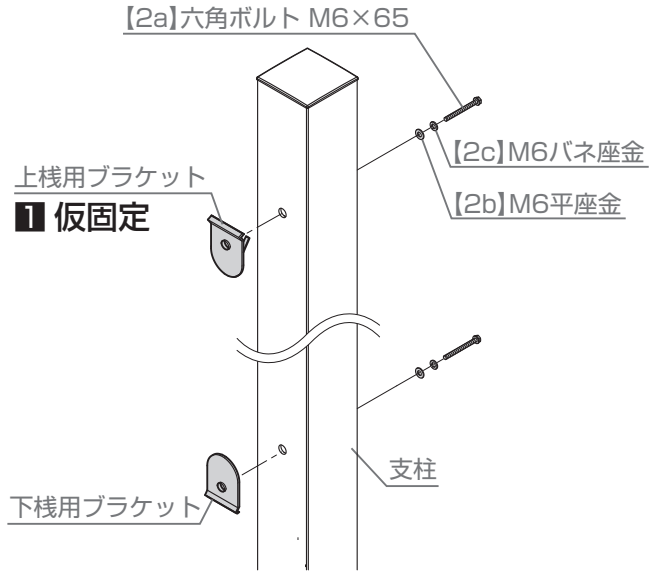
2 フェンス本体の取付け

⚠ 注意

- 上下棧が上棧用ブラケット・下棧用ブラケットに確実にかかるよう取付けてください。フェンス本体が外れるおそれがあります。

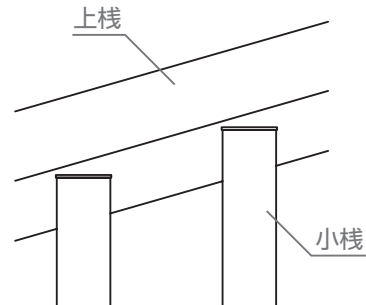
※フェンス本体に上下の区別はありません。

- 上棧用ブラケット、下棧用ブラケットを【2a】【2b】【2c】で仮固定



⚠ 注意

- フェンス本体は傾斜対応を可能にする構造上なめにつぶれますので、上下棧と小棧のすき間に指をはさまないように注意してください。

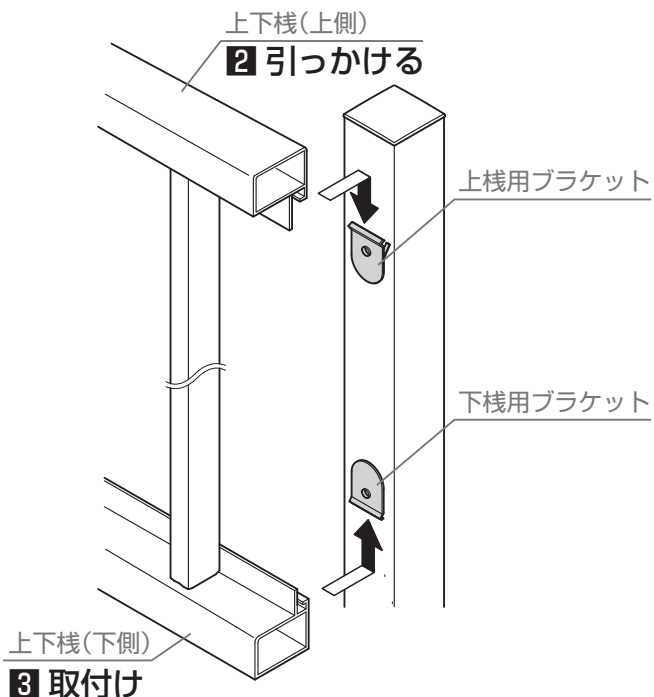


2 フェンス本体の取付け

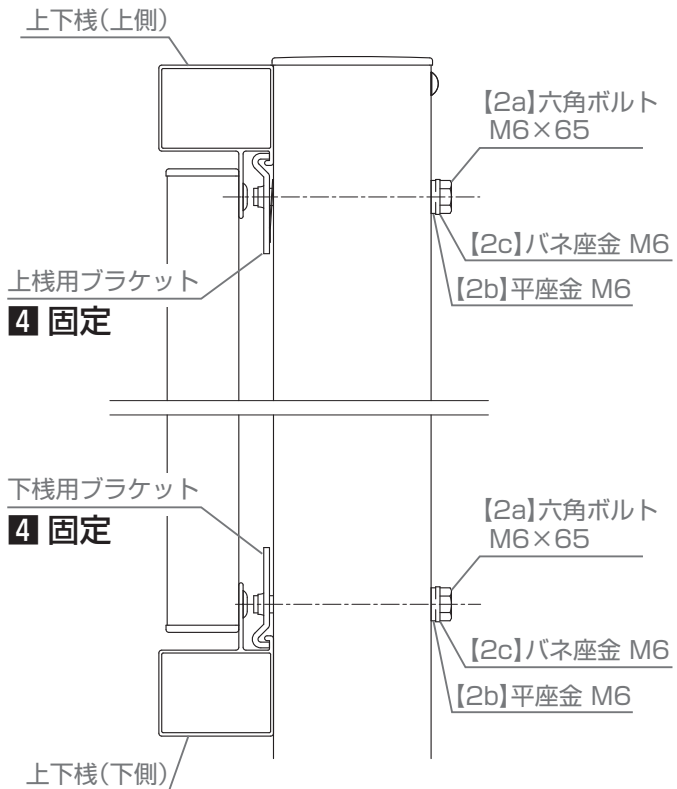
2: フェンス本体の上下棧(上側)を上棧用ブラケットに引っかける

3: フェンス本体の上下棧(下側)を下棧用ブラケットに取付け

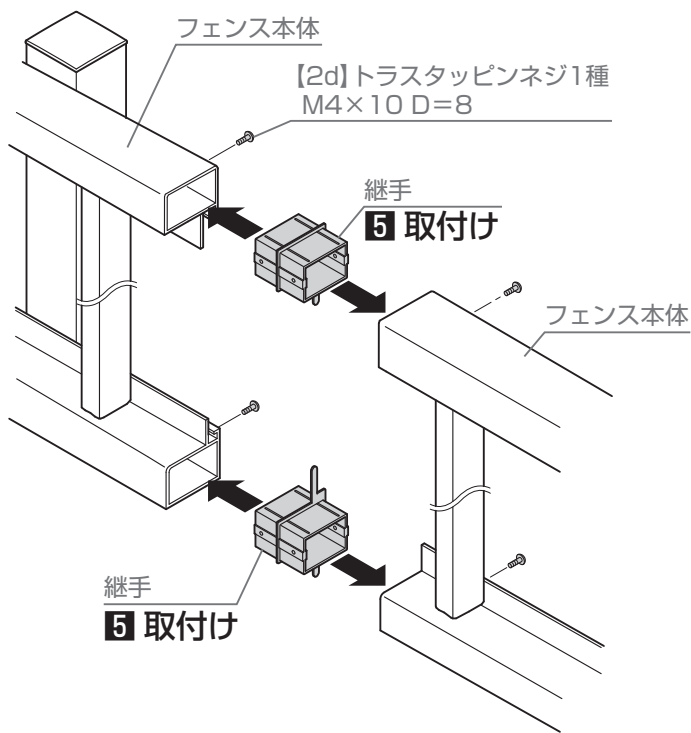
※本体に上下の区別はありません。



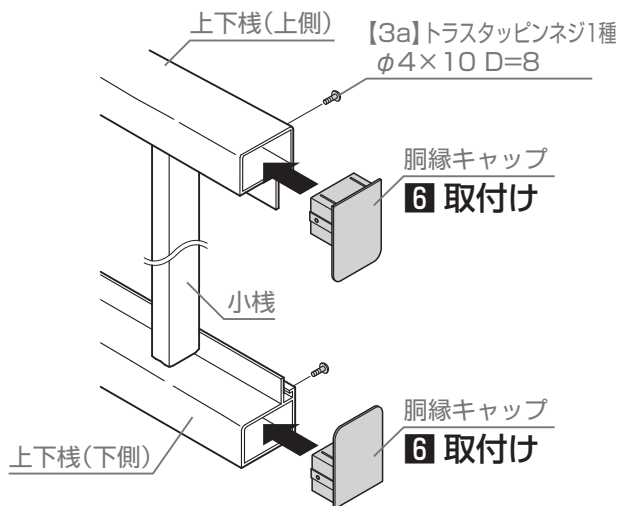
4: 上棧用ブラケットと下棧用ブラケットを【2a】【2b】【2c】でしっかりと締め付けて固定



5: フェンス本体の連結は継ぎ手を【2d】で取付け

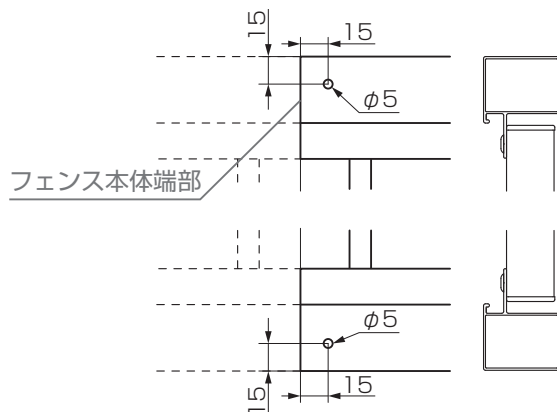


6: フェンス本体の端部には胴縁キャップを【3a】で取付け



フェンス本体の端部を切詰める場合

●フェンス本体端部を切り詰めした後、下図の位置に継手(または胴縁キャップ)取り付け孔φ5を開け直してください。

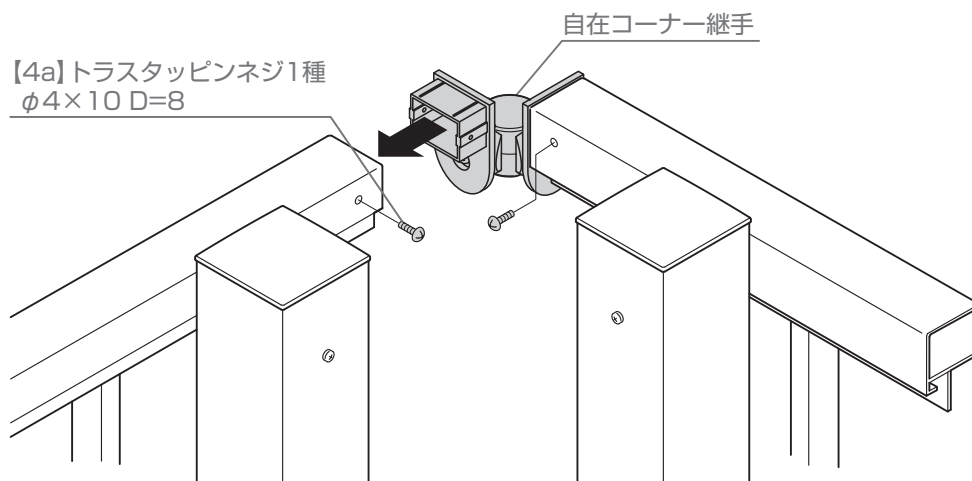


3 自在コーナー継手の施工

1: 自在コーナー継手を【4a】で上下棧に取付け

●対応角度

出入隅 60°~180°



取説コード

EXM-112

JZZ638546
202307_1049